

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	足利市立桜小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	17
児童数	55	54	51	55	50	48	0	313	

研究の概要

1 研究主題

一人一人を生かし、基礎学力の定着と自ら学ぶ力の向上を目指す指導
 ～～国語科や算数科の指導を通して～～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年 国語科及び算数科

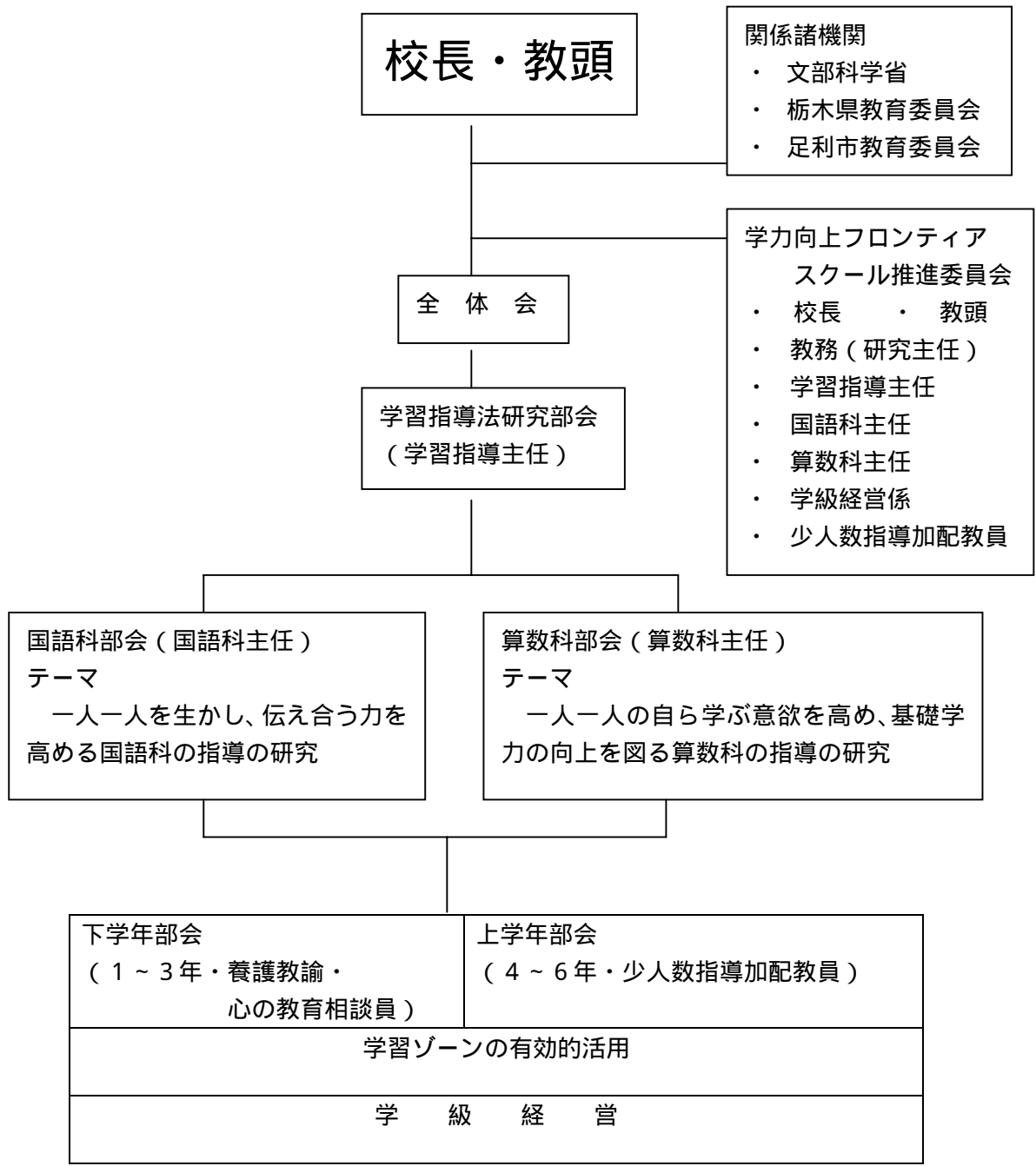
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	学力について再確認をする。 子どもたちの実態調査 学力向上のための全体計画作成 個に応じた指導の仕方の検討 単位時間における学習の流れと指導上の留意点について 中間発表	
	国語科	算数科
	国語科の研究主題 一人一人を生かし、伝え合う力を高める国語科の指導の研究	算数科の研究主題 一人一人の自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る算数科の指導の研究
	1 児童が主体的に取り組み、 意欲的に学ぼうとする態度の育成 一人一人を生かす授業の実践と支援のあり方 2 自分の思いや考えを伝え合い、学び合う中で表現力や理解力を高めたり広げたりできる態度の育成	1 自ら学ぶ力の向上 自ら学ぼうとする意欲を高める 分かる楽しさが味わえる授業の推進 学習のコースや内容の自己選択力の育成 自己評価 親子でコース選択 オープンスペースの活用 発展的な学習において自分の力で学習する機会の確保

	<p>五つの言語意識を踏まえた授業展開の工夫</p> <p>相手意識 目的意識 場面意識 方法意識 評価意識</p> <p>3 基礎的、基本的な力の定着と個性の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動例一覧表の作成と活用（育てたい言語活動能力の視点から） ・ 「話すこと・聞くこと」のワザ一覧表作成と活用 ・ 言語活動年間単元構想の作成と活用・教材の工夫 ・ 評価規準の作成と活用 	<p>2 基礎学力の確実な定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 一単位時間の授業の改善 指導目標の明確化指標化場面の設定 課題提示の工夫 一斉指導と既習事項を生かした自力解決の場の確保 机間指導の徹底 学習事項の習熟を図る個別時間の確保 算数的活動の取り入れ 繰り返しによる計算力の向上 単元末・各学期末における基礎的・基本的内容の習熟 評価規準の作成と活用 <p>3 個に応じた指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導体制の工夫・改善 T・Tによる学習 習熟度別学習 少人数指導 補助的教材や発展的教材の開発 パソコンの活用
--	---	---

平成16年度	<p>全体計画を踏まえた研究の推進</p> <p>児童の実態調査</p> <p>研究のまとめ</p> <p>研究発表会の実施</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材開発

国語

話すこと・聞くことのワザ一覧表

学習を行うためには、伝え合う力の育成が重要である。特に、基礎的学力としての言語能力は、自発的な学習を行うためにも欠かせないものである。そこで、児童一人一人に、「話すこと・聞くことのワザ一覧表」を持たせ、言語を意識しながら学習し、自己評価や相互評価の視点として活用することで、言語能力の向上を図っている。

算数

発展的な学習や補足的な学習の習熟を図るためのプリントの作成

具体的な操作を取り入れるための教材の活用

児童が、学習の理解を深めたり数学的な考え方を高めたりするためには、視覚や触覚等の五感を使った具体的な操作を通すことが大切だと考えた。そのため、百玉そろばんや数え棒等の算数セットを、低学年はもちろん、中学年でも取り入れることにした。

自分の考えを発表し合うのに便利なホワイトボードの活用

学習において、自分の考えを発表し合う活動は中核となる活動であり、話だけでなく計算の仕方等を書いたものを通して行う方が、より自分の考えを認めてもらえる。そこで、ホワイトボードの活用している。これは、鉛筆感覚で書くことができるとともに、訂正も速やかにできるため児童にとって取り扱いが容易であり効果も大きい。

パソコンソフト「算数チャレンジャー」の活用

児童は、パソコンに対する興味・関心が高く、意欲的に活用する。そこで、発展的学習の中でパソコンソフトの「算数チャレンジャー」を使うことも取り入れた。

(2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

共通

毎時間の学習の流れを再確認

「学力向上フロンティアスクールの研究」だから、特別なことをするわけではなく、一人一人の良さを認める学級経営が土台であり、毎日の学習の一時間一時間が基本である。そこで、桜小学校の国語科と算数科の学習の流れを、教師が共通理解をする意味でも学習の流れの再確認をした。

国語

言語活動例一覧表と言語活動年間単元構想

伝え合う力、特に、言語能力の育成のため、言語活動例一覧表を作成して、桜小学校で育てたい言語活動能力が、どの単元で指導できるか、意図的・計画的にできるようにした。その際留意した点が、

- ・ どんな言語の力を育てたいか。
- ・ その子の力を育てるのに、子どもの言語生活の中に学習にふさわしいどんな場があるか。
- ・ そこで、どんな言語学習をさせるのか。
- ・ その場を設定することで、どんな学習過程が成立するか。
- ・ そこに、どんな言語活動が成立するか。

学習過程の明確化

一人一人の児童を生かすには、児童が主体的に取り組む意欲と学ぼうとする態度の育成が大切である。

そのため、学習過程を、「つかむ」「すすめる」「たしかめる」の3段階を通して児童が見通しを立てて取り組み、学習のしかたや方法を実感しながら身につけられるよう工夫した。

つかむ（課題提示・課題把握）

すすめる（実行・追求）

たしかめる（評価・確認）

5つの言語意識（相手・目的・場面・方法・評価）が働く学習の場を設定

5つの言語意識を有効に機能させるために、児童一人一人に、活動の必要感、あるいは、切実感をもたせ、自分の思いや考えがきちんと言語活動の中で伝わるようにした。そして、次のような学習展開をしてきた。

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の願いを実現できる。 ・ 豊かなコミュニケーションができる。 ・ 目的に応じて豊かに理解できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な知識や情報を獲得できる。 ・ 自分の考えを豊かに表現できる。 ・ 基礎的な言語の力が伸びる。 |
|--|---|

算数

T・T指導とコース選択学習

1～3年生において、1クラスに2名の教員で算数を行ってきた。支援を受けることが多くなり児童も喜んでいて、また、必要に応じて1時間の中で活動を2コース用意して、児童の関心と習熟度を考えてコースを選択させた学習を行った。

T・T興味・関心別学習

4年生の「割り算」の学習において、計算能力の習熟を図るため、いろいろなタイプの計算プリントを用意して、児童にどのタイプを行うかを選択させた。

T・Tコース選択習熟度別学習

5年生の「小数の割り算」の学習において、T・Tコース選択習熟度別学習を行った。児童は、少人数のため教師による支援が受けやすいためと、習熟度による学習の早さが自分達にあってきたためか、みな意欲的に学習していた。

T・T少人数指導

6年生の「速さ」の学習において、1クラスを3グループに分け3名の教師で行った。少人数のため、学習中の話を静かに聞くことができ、戸惑った時に教師が支援が受けやすかったため、児童に好評であった。

(3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善

共通

評価規準の作成と活用

国語

言語活動年間単元構想の作成

それぞれの単元の目標や育てたい言語能力をどこで意図的・計画的に指導していけるか、言語活動年間単元構想を作成し、言語活動能力の指導を位置付けた。

算数

実態把握のための事前チェックテストや学習のチェックカードの作成

習熟度別学習を行うためには、事前の児童の学力の実態を的確につかむことが重要である。そのため、事前チェックテストを徐々に作成中である。

コース選択の資料

習熟度別学習を行う際（単元の途中でコース変更を認めているため）に事前チェックテストや途中までの学習の結果を保護者に連絡して、コース選択の資料としてもらっている。

(4) その他の取組

共通

オープンスペースの活用

本校は、オープンスペース形式の校舎の作りになっているため、その長所を生かす意味で学習においてオープンスペースを活用することを積極的に取り入れている。

2 今後の課題

- (1) 児童の学力把握における実態調査の方法の再検討
- (2) さらなる教材研究と教材作成
- (3) 個に応じた指導、特に、少人数指導の在り方の再検討
 - ・ 習熟度別学習等
- (4) 児童の学習に対する意欲の高め方の研究
- (5) 数値に表しにくい学力の向上の様子をどうとらえていったらいいのかの研究

3 学力等把握のための学校としての取り組み

- (1) 漢字を書き取る力や計算力等の実態把握
- (2) 児童の学習に対する意欲などの意識調査
- (3) 家庭における学習と保護者の考えの実態把握
- (4) 全学年NRTテストの実施
- (5) 日記や読書量調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 研究の1年次における中間発表として授業の公開と、2年次において研究発表会の実施
- 2 足利市等における研修会等での、研究実践報告の実施
- 3 学校のホームページへの研究内容の掲載

【新規校・継続校】 15年度からの新規校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無